

在宅高齢者における社会参加活動と セルフ・エフィカシーとの関連

八戸学院大学人間健康学部専任助教・小柳達也

【背景】

在宅高齢者の生産的な活動を後押しする施策を講じていく際、日常生活場面における能力発揮可能性は、高齢期では特に個人差の拡大が想定される。

一般的セルフ・エフィカシー (General Self-Efficacy : 以下、GSE) は、概念として、日常生活における行動の遂行可能感とも捉えられ、演繹的に、社会参加活動に積極的に参加しているものほど GSE の値が高い、との仮説を設けることができる。したがって、本研究では、在宅高齢者の社会参加活動と GSE の概念間の関連を明らかにすることを目的とする。

【方法】

(1) 調査内容と点数化

性、年齢階級、家族形態、経済的な暮らし向き、居住年数、社会参加活動、GSE、について尋ねた。

社会参加活動の測定指標については「社会活動性指標」を使用した。一方、GSE の測定指標については「特性的自己効力感尺度」を使用した。

(2) 調査方法

調査方法は、A 県内において保健・医療・福祉等施設以外に住所を有して生活している 65 歳以上の者を対象に、他記式質問紙を用いたインタビュー調査を街頭にて実施した。質問項目に欠損がない 319 票が分析の対象となった。調査期間は、平成 22 年 6 月 1 日から 9 月 30 日迄の 4 ヶ月間であった。

(3) 分析方法

まず、分析に用いる変数の基本統計量を算出した。次に、GSE と社会参加活動との関連については、GSE を従属 (結果) 変数として、ステップワイズ法による重回帰分析を行い、5% 水準以下で優位差のあった要因について検討、考察した。

【結果】

(1) 分析対象者の特性

分析対象者 319 名は、男性 138 名 (43.3%)、女性 181 名 (56.7%) であり、女性が 1 割ほど多かった。年齢階級では、65 歳以上 75 歳未満が 200 名 (62.7%)、75 歳以上が 119 名 (37.3%) であり、前期高齢者が 2 割ほど多かった。

(2) GSE と社会参加活動 (各指標) の基礎統計量

GSE 得点と社会参加活動 (各指標) の得点の基礎統計量は、表 1 の通りであった。

表 1 GSE と社会参加活動 (各指標) の基礎統計量

	平均値(標準偏差)
GSE	72.13(12.26)
仕事	0.38(0.34)
個人活動	6.14(1.12)
社会・奉仕活動	1.30(0.55)
学習活動	0.69(0.24)

(3) GSE と社会参加活動との関連(表 2 参照)

GSE を従属 (結果) 変数とした重回帰分析の結果、第一に、社会参加活動の指標のうち、標準化係数の値が高いものから、個人活動が.19 (符号は正)、仕事が.15 (符号は正)、社会・奉仕活動が.11 (符号は正)、学習活動が.08 (符号は正)、の順となった。すなわち、社会参加活動に積極的に参加している高齢者ほど GSE が高いといえる。

第二に、性 (男性) の標準化係数が.15 (符号は正) と有意な影響を示している。すなわち、高齢者は全般的に女性よりも男性の方が GSE が高いといえる。

第三に、年齢階級の標準化係数が.07 (符号は負) と有意な影響を示している。しかし、符号が負であることから、より低年齢の階級ほど、後期高齢者よりも前期高齢者ほど、GSE が高いといえる。

なお、「最終学歴」「家族形態」「経済的な暮らし向きの自己評価」「居住年数」は除去された。

表 2 在宅高齢者の GSE に関連する要因

	GSE 標準化係数
個人活動	.19**
仕事	.15**
社会・奉仕活動	.11**
学習活動	.08**
性 (男性)	.15*
年齢階級	-.07*
その他統制変数	除去
重相関係数(R)	.435

* $p < .05$, ** $p < .01$

【考察】

社会参加活動と SE、両者の関連を確認していく必要性は既に示唆されていたが、先行研究は乏しく、信頼性および妥当性のある指標を用いた調査研究ともなると、皆無に近い状況であったが、本研究において、社会参加活動 (指標: 「仕事」「個人活動」「社会・奉仕活動」「学習活動」) は GSE に対して有意な影響を与えることが明らかとなった。しなしながら、社会的活動と SE、両変数の関連が確認されていない旨の報告も若干みられ、今後、研究がより蓄積し、地域特性をも含めた比較検討が行われていくことが望まれる。

【結論】

本研究の結果から、今後、在宅高齢者の生産を含む社会参加に関わる方策を検討する場合、既に何らかの社会参加活動に積極的に参加している者に対して、生産への可能性を特に期待して良いであろう。